

2019年度 事業報告書

概 況

2019年度におけるわが国経済は、頻発した自然災害や消費増税に伴う反動減の発生等による一時的な影響を受けつつも、政府による積極的な経済財政政策を背景に、企業収益、雇用・所得環境の改善等により、景気は緩やかな回復傾向にありました。しかしながら、年明けからは新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、経済活動が急速に後退するなど、景気の先行きは極めて不透明な状況が続いています。

一方、ヘルスケアの分野では、公的保険以外の予防・健康管理サービスの活用を通じて、生活習慣の改善や受診勧奨等を促すことにより、「重症化した後の治療」から「予防や早期診断・早期治療」に重点が置かれています。

このような状況のもと、弊協会の今年度売上は、31億円強で前期比減収となりました。集団健診事業において、大手先の喪失や年度終盤における新型コロナウイルス感染症の影響等により、前期比減収となったものの、診療所事業は、個人の健康志向の高まりや地方自治体の後押し等により、前期比増収で過去最高益を更新しました。利益面では、売上の減少や固定資産償却費を主因に販管費が増加したこと、補助金収入の減少等により、当期利益は前期比減益となりました。

財政状態につきましては、利益剰余金の上積みより、引き続き高い自己資本比率水準を維持しております。

弊協会は内閣府より認可を受け、2012年4月1日に「一般財団法人京浜保健衛生協会」となり、8年が経過しました。新たな公益法人の役割の中で「公益目的支出計画」の達成と、行政をはじめ、関係諸団体と連携を密にし、弊協会の定款に定める健康診断並びに調査研究指導・啓発広報等を通じ、国民の生活習慣向上のために健康診断事業を適切に推進していきます。引き続き関係各位のご支援とご指導をよろしくお願いいたします。

I. 集団健康診断事業・診療所事業

1. 集団健診事業

1) 受診者数・売上状況

- ・今年度は、約 41 万人の方々に受診いただき、前期比わずかですが減少となりました。
- ・売上は、大手先の喪失や新型コロナウイルスの影響により、前期比減収で 20 億円弱に留まりました。

2) 主な動向

- ・血液オプシオン検査は、NT-proBNP、風しん抗体等の追加もあり、受診者のニーズに応えるとともに、売上積上げに寄与しました。
- ・一般財団法人日本宝くじ協会の補助を受け胃部胸部デジタル撮影車 1 台と公益財団法人 JKA の補助を受け胸部デジタル撮影車 1 台を導入することができ、最新の機器による精度の向上、撮影室や待合室が広くなり、より快適に受けていただくことができるようになりました。

2. 診療所事業

1) 受診者数・売上状況

- ・年々増加傾向にあり、今年度の受診者数は 25,600 名を超える方々に受診いただきました。
- ・売上は、約 4.4 億円で過去最高益を更新しました。

2) 主な動向

- ・午前の健診を 2 部制にしたことにより、待ち時間を短縮し、検査項目が少ない健診を午後に行なうことで、健診効率を改善し、受診者数を増やしています。
- ・胃部 X 線撮影装置と胸部読影システムを最新機器に更新したことで、撮影画像の精度向上や読影医の負荷軽減、読影精度平準化を図ることができました。

Ⅱ.調査研究事業

1. 調査事業

がん検診追跡調査

- ・2018年度、がん検診（胃・胸・大腸・子宮・乳房）の受診者は、約34万名（男68%、女32%）でした。
- ・要精密検査となった者のうち、追跡調査用紙を発送できたものは475名、回収できた者は347名で発送数の73.％でした。

2. 健康支援事業

- ・健康相談事業は、健康診断に付随して、電話による相談も含めそれぞれ必要に応じた場面で行っています。
- ・診療所では、今年度より人間ドックの項目に「健康相談」を新規追加したことにより個人面接者数が前期比大幅に増加し、2,500名弱の受診者と個人面接を実施しました。

3. 特定保健指導

- ・生活習慣改善で大事なことは「自己効力感」と言われています。当協会のプログラムは、対象者の方々の個別性を踏まえ、自己効力感を高め、メタボ脱却に向け3か月間の支援を行なっています。
- ・9健保に対して、積極的支援101名、動機づけ支援73名、総計174名の方々に特定保健指導を実施いたしました。

Ⅲ.公益事業

当協会の公益事業は（1）幼稚園事業、（2）JMS事業、（3）講演会事業、（4）広報事業、4つの事業を柱としています。

1. 幼稚園事業

- ・子育てで忙しく日頃健診を受ける機会が少ない幼稚園児の母親および教職員を対象に、川崎市の17園の幼稚園に直接伺い、血液検査と骨量測

定を行いました。また診療所では、婦人科検診（乳がん検診と子宮がん検診）を実施しました。

- ・血液検査と骨量測定を受けられた方は 741 名、診療所にて婦人科検診を受けられた方は全 30 日間で 574 名となりました。

2. JMS 事業

- ・日本乳がんピンクリボン運動が 2009 年から「10 月第 3 日曜日」を「ジャパン・マンモ・サンデー」として全国の医療機関に賛同を呼びかけ、当協会も趣旨に賛同し実施しています。
- ・2019 度は、10 月 20 日に開催し、平日受診することの難しい 75 名の女性の方に受診いただきました。

3. 講演会事業

- ・第 32 回定例健康管理講演会を、11 月 1 日に T K P ガーデンシティ品川にて、スキーンルディック複合で 2 度のオリンピック金メダリストとなった荻原健司先生を講師としてお招きし、「スポーツでココロもカラダも健康に！」のご講演をいただきました。
- ・120 名の参加者からは「金メダリストの体験談を聞くことができ、貴重な時間でした」、「こころが元気になりました！」など関心の高さ、講演内容の素晴らしさが伝わる感想を多数いただきました。

4. 広報事業

- ・広報誌「ほほえみらいふ」を次の通り発行しました。

2019 年 7 月 1 日 74 号 2,000 部。

2019-年 1 月 6 日 75 号 2,000 部。

発送先：官公庁、事業所、地区組織、全衛連加盟機関等。

以上